

# スクールインターンシップ 体験レポート

商学部 3年次生

## 1. 参加の理由

自分は、教育実習に行く前に学校現場を体験したいという気持ちと、母校とは異なる特色を持つ高校に行ってみたいという好奇心からスクールインターンシップの応募を決意しました。という綺麗事だけでなく、実は自分探しも兼ねていました。

## 2. 学んだこと

### (1)商業科独自の活動について

同じ商業をメインにした学科でも、自分が高校生のときにした課題研究とはまったくといっていいほど内容が違っていました。私の行っていた高校では、自分で一つのテーマを考え、それに沿った 6000 字のレポートを作成することでした。総合学科のため、幅広い学問が校内にある自分の学校ならではのようです。しかし木津高校は全然違います。木津高校には農業を主とする学科もあるのですが、そこで育成された野菜やお茶の葉を情報企画科の生徒たちで実際に販売するなどの販売活動や商品企画で生徒商業研究発表大会に参加したりなどされていました。そこで自分達で動画を作ったり、パッケージを作成したり生徒たちの活動を見ることができました。これは今まで「住んだことのない県」の「母校とは違う校風」で「学ぶ課題研究」はおそらく教育実習では得られない大変貴重な体験であったと感じます。そういった点で、生徒たちから実践力や企画力、自主性の大切さなどを実感しました。

### (2)コミュニケーション

だからこそ活動に関わる先生の生徒たちへのはたらきかけも工夫があると学びました。人によってモチベーションの上げ方も様々です。なので、何を発言するのか、どこまで言っているのか、言い方はどのようにいうのが望ましいのか、など悩みました。生徒ひとりひとりをよく観察して反応をきっかけを見つけるしかないと思いました。あとは「私だから」伝えることを意識することが大切だなと感じました。「何を言うか」ではなく、「誰が言うか」で言葉の意味とか重さとか変わるものなんだと改めて実感しました。これは社会人全ての人にも当てはまることだと思いますが、だからこそ自分が何をしてきた人なのかとか、今の自分が相手にどう映るのか、いつでも自分を客観視しておくべきだと思いました。

## 3.参加を考えているひとたちへ

私が参加したのは、商業と少し特殊ですが、自分が行ったことない学校に行ったり、教育実習に行く前に学校現場を教師側の立場で体験させていただくことで、新たなものの見え方だったり、新たな気づきが得られると思うので、ぜひ参加することをおすすめします。またこれから参加したいと思っている人は、「自分から声をかける」ことを徹底的にしてください。これは期間中に思ったことですが、自分を知ってもらうためには、そして参加の充実感を得るためには、待ちの姿勢ではもったいないです。先生にも生徒にも話しかける「勇気」、そして自分が何に貢献できるのかと考え準備しておくことをお勧めします。私は、緊張も相成って期間の後半からしか自分出せてきたという感じがするので、物足りない気がしています。短い期間ですが、行ってよかったなと思います。